

わが修二校



平成29年度 第5号

平成29年9月1日
京都市立修学院第二小学校
校長 川口 正二

9月のことば

今月は「『一流』とは 当たり前の事を 当たり前にやる 人のことだ」としました。

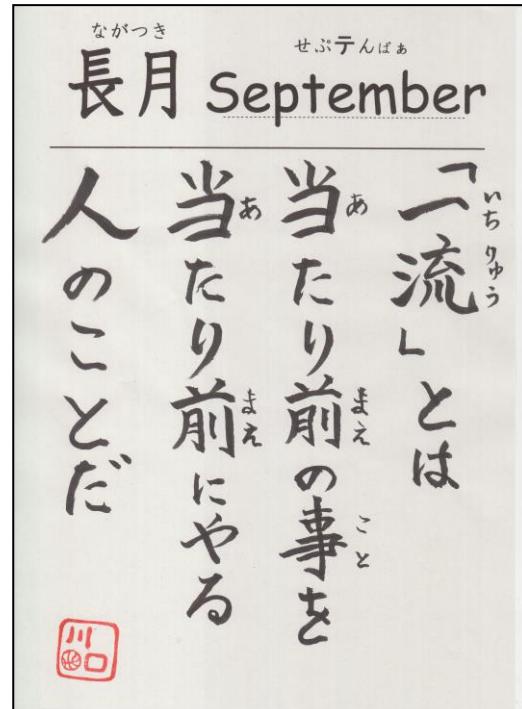
「一流」と言うと、何か人とは違う特別な能力を持った、とても凡人が及ぶことのできないような人物だと思われているように感じます。しかし、「一流」とは、決して天才でもなく、何もしなくても初めから何かが素晴らしいできた人でもありません。もちろん、持って生まれた資質の違いはあるでしょうが、一流と言われる人が一流になったのには、「当たり前にすべき事」を「当たり前に」やり続ける、並々ならぬ努力があったのです。当たり前のことをきちんとやり抜くことが、特別な存在にさせていくのです。二流、三流の人というのは、ケガやちょっとした病気や都合を理由にしたり、家族など周りの人のせいにしたりして、結局当たり前にすべき努力を怠り、自分がすべきことから逃げていく人なのです。

ベートーヴェンは「努力した者が成功するとは限らない。しかし、成功する者は皆努力している。」という言葉を残しているそうです。また、プロ野球選手のイチローはある講演で小学生に「イチロー選手みたいに野球がうまくなるためにはどうすればいいのですか」と訊かれて、「勉強など、あなたが当たり前にすべきことがきちんとやれる人間になることです」と答えたそうです。

何も、何か他の人よりも優れたことができて、世間を驚かせるような人間になってほしいということを言いたいのではありません。人にはそれぞれ自分なりの「一流」の生き方があるはずです。それは自分なりのやるべき「当たり前の事」を見つけてしっかりと実行することです。その自分なりの「一流」の生き方を究めて行く努力を続けて欲しいのです。それが、自分の将来を切り拓き、自分の納得できる人生を歩んでいくことになるのです。もしかするとそれが世の中に認められるような「一流」に繋がっていくのかもしれません、まず、自分の個性に気づき、自分のすべき「当たり前の事」をしっかりと実行できる人間になって欲しいと思うのです。

「京キッズ会議」参加

ホームページでも紹介しましたが、8月22日（火）に行われた「京（みやこ）キッズ会議」に本校から6年生2名が代表として出席し、本校の取組を発表しました。元々、この時期に全市の中学生が集まって行われる「中学校生徒会議」というものが



あるのですが、今年度初めて小学生対象の会議も行われ、中学生の会議と合同で「京都市こども未来会議」として開催されました。全市約160校のうち46校（左京南支部12校からは本校を含めて2校）の児童が参加しました。各校の取組を紹介しあい、意見を交流し、自校の取組に生かそうというねらいがあります。本校代表2名は6月に行った「クリーンキャンペーン」や今年も9月に行われる「一乗寺バザー」など小中一貫教育の取組を中心に発表しました。代表としてしっかり堂々と発表し、交流でも活発に意見を述べることができました。



再開日集会…夏休み中、家族に貢献？ 整列、自分たちで

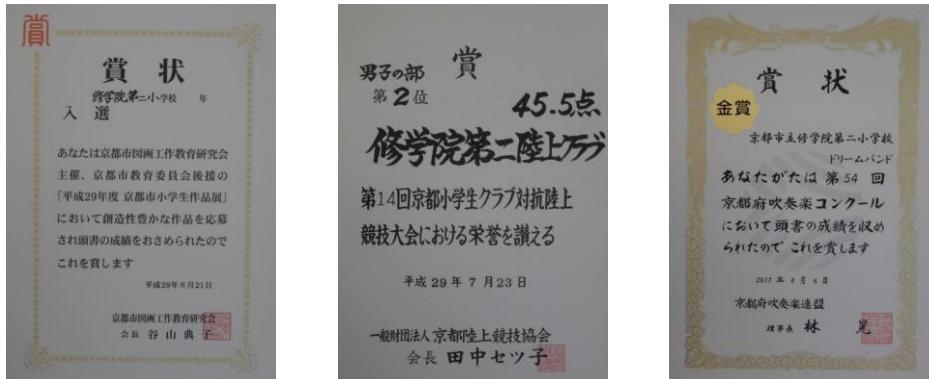
8月25日、前期再開日の全校集会で次のような話をしました。

「夏休み中にしてほしいことを2つお願いしたうちの一つに、家族や地域に何か一つ貢献できること、何か役に立つことを一つでいいからやりましょう、というのがありました。実行できましたか？」

各ご家庭で、子ども達はいかがでしたでしょうか。何か家族に貢献することを実行できましたでしょうか。上に書いた「一流」の生き方、自分らしい生き方を追求するのと同時に、社会に貢献できることを一人一人がしていくというのも、社会の一員としての生き方にとて大切なことです。ご家庭でお話ししてみてほしいと思います。

また、今年度に入ってから、朝会など全体で集合する時には、先生が整列させるのではなく学級の代表の児童が号令をかけたりして、子ども達が自分達の力で集合、整列するようにしています。この日も自分達でしっかりと整列し、しっかりとした態度で集会に臨むことができました。

「修ニッ子」の活躍



京都市小学生作品展 … 本校からは、絵画、立体作品17名分を出品し、3名が入賞しました。全員に賞状が贈られています。

ドリームバンド … 8月6日（日）京都府吹奏楽コンクールに出場（小学校からは9校が出場）し、2年連続で金賞を受賞しました。

陸上部 … 7月23日（日）に西京極陸上競技場で行われた京都小学生クラブ対抗大会において、男子総合で第2位を獲得しました。また個人種目においても多数入賞しました。



この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収等へ！

